マツバノタマバエ

マツの葉が短くなったり，くの字状に曲がる．葉と葉が途中でくっつき，その部分が茶色になって少し膨らむ．膨らんだ部分の中には数mmの黄色のウジムシ（幼虫）がいる．
まれながら多発する．何年も多発が続くと，木が枯れることがある．

【学名】 *Thecodiplosis japonensis*
【分類】 ハエ目（Diptera），タマバエ科（Cecidomyiidae）
【分布】 北海道，本州，四国，九州；朝鮮半島．

【生態】
宿主： アカマツ，クロマツ．
年１世代．土の中で幼虫で越冬し， ５～６月に蛹になる．成虫は６～７月に現れる．卵は伸び始めたばかりの葉と葉の隙間に産みつけられる．孵化した幼虫は葉の根元の方に移動，定着する．幼虫が定着したところは葉と葉がくっつき膨らむ．
幼虫は６～１１月の間，葉の中で栄養を摂取する． １１月に外に出て，土の中で繭を作って越冬する．

【文献】
1985．農林水産省林業試験場北海道支場保護部．北海道樹木病害虫獣図鑑．223 pp．北方林業会，札幌．（生態，被害，カラー写真）．

北海道立林業試験場・緑化樹センター

マツバノタマバエ tamabae/matubano/
kaisetu.htm
「文章」 原秀穂，北海道立林業試験場，2002/1/5.